「広島平和の旅」　報告集発行にあたって

西東京市は、平成 13 年（2001 年）1 月 21 日、旧田無市と旧保谷市との合併と同時に、「西東京市平和推進に関する条例」を制定しました。翌年の平成 14 年（2002 年）1 月 21 日には、「非核・平和都市宣言」を行い、毎年４月 12 日の「西東京市平和の日」をはじめとした様々な機会に、戦争体験を次世代に継承する取組みや、平和の意義を考えていく事業を行っています。

被爆都市へ公募市民と共に訪問する事業は、平和事業の推進・啓発活動の一環として、平成 13 年度（2001 年度）から実施しています。

広島・長崎への原爆投下、そして終戦から 73 年が経過しました。戦争を知る世代が次第に少なくなり、戦争の記憶が薄れることが危惧されています。

今年は親子４組、合計８人の市民の方々が広島を訪れました。平和記念式典への参列をはじめ、原爆ドームや平和記念資料館の見学、被爆体験者の講話等をとおして、原爆や戦争がもたらす悲惨さや平和の大切さ、命の尊さについての理解を深め、この時期に広島を訪れることの意味を改めて考えるなど、多くの体験を持ち帰りました。

この報告集は、旅の様子や参加者の皆さんが得たことを多くの方に共有していただけるよう纏めたものです。この報告集が、平和を考えるきっかけになれば幸いです。

平成 30 年８月

西東京市

平　和　宣　言

73年前、今日と同じ月曜日の朝。広島には真夏の太陽が照りつけ、いつも通りの一日が始まろうとしていました。皆さん、あなたや大切な家族がそこにいたらと想像しながら聞いてください。8時15分、目もくらむ一瞬の閃光。摂氏100万度を超える火の球からの強烈な放射線と熱線、そして猛烈な爆風。立ち昇ったきのこ雲の下で何の罪もない多くの命が奪われ、街は破壊し尽くされました。「熱いよう！痛いよう！」潰れた家の下から母親に助けを求め叫ぶ子どもの声。「水を、水を下さい！」息絶え絶えの呻き声、唸り声。人が焦げる臭気の中、赤い肉をむき出しにして亡霊のごとくさまよう人々。随所で降った黒い雨。脳裏に焼きついた地獄絵図と放射線障害は、生き延びた被爆者の心身を蝕み続け、今なお苦悩の根源となっています。

世界にいまだ1万4千発を超える核兵器がある中、意図的であれ偶発的であれ、核兵器が炸裂したあの日の広島の姿を再現させ、人々を苦難に陥れる可能性が高まっています。

被爆者の訴えは、核兵器の恐ろしさを熟知し、それを手にしたいという誘惑を断ち切るための警鐘です。年々被爆者の数が減少する中、その声に耳を傾けることが一層重要になっています。20歳だった被爆者は「核兵器が使われたなら、生あるもの全て死滅し、美しい地球は廃墟と化すでしょう。世界の指導者は被爆地に集い、その惨状に触れ、核兵器廃絶に向かう道筋だけでもつけてもらいたい。核廃絶ができるような万物の霊長たる人間であってほしい。」と訴え、命を大切にし、地球の破局を避けるため、為政者に対し「理性」と洞察力を持って核兵器廃絶に向かうよう求めています。

昨年、核兵器禁止条約の成立に貢献したICANがノーベル平和賞を受賞し、被爆者の思いが世界に広まりつつあります。その一方で、今世界では自国第一主義が台頭し、核兵器の近代化が進められるなど、各国間に東西冷戦期の緊張関係が再現しかねない状況にあります。

同じく20歳だった別の被爆者は訴えます。「あのような惨事が二度と世界に起こらないことを願う。過去の事だとして忘却や風化させてしまうことがあっては絶対にならない。人類の英知を傾けることで地球が平和に満ちた場所となることを切に願う。」人類は歴史を忘れ、あるいは直視することを止めたとき、再び重大な過ちを犯してしまいます。だからこそ私たちは「ヒロシマ」を「継続」して語り伝えなければなりません。核兵器の廃絶に向けた取組が、各国の

為政者の「理性」に基づく行動によって「継続」するようにしなければなりません。

核抑止や核の傘という考え方は、核兵器の破壊力を誇示し、相手国に恐怖を与えることによって世界の秩序を維持しようとするものであり、長期にわたる世界の安全を保障するには、極めて不安定で危険極まりないものです。為政者は、このことを心に刻んだ上で、NPT（核不拡散条約）に義務づけられた核軍縮を誠実に履行し、さらに、核兵器禁止条約を核兵器のない世界への一里塚とするための取組を進めていただきたい。

私たち市民社会は、朝鮮半島の緊張緩和が今後も対話によって平和裏に進むことを心から希望しています。為政者が勇気を持って行動するために、市民社会は多様性を尊重しながら互いに信頼関係を醸成し、核兵器の廃絶を人類共通の価値観にしていかなければなりません。世界の7,600を超える都市で構成する平和首長会議は、そのための環境づくりに力を注ぎます。

日本政府には、核兵器禁止条約の発効に向けた流れの中で、日本国憲法が掲げる崇高な平和主義を体現するためにも、国際社会が核兵器のない世界の実現に向けた対話と協調を進めるよう、その役割を果たしていただきたい。また、平均年齢が82歳を超えた被爆者をはじめ、放射線の影響により心身に苦しみを抱える多くの人々の苦悩に寄り添い、その支援策を充実するとともに、「黒い雨降雨地域」を拡大するよう強く求めます。

本日、私たちは思いを新たに、原爆犠牲者の御霊に衷心より哀悼の誠を捧げ、被爆地長崎、そして世界の人々と共に、核兵器廃絶と世界恒久平和の実現に向けて力を尽くすことを誓います。

平成30年（2018年）８月６日

広島市長　松井　一實

平和への誓い

人間は、美しいものをつくることができます。
人々を助け、笑顔にすることができます。
しかし、恐ろしいものをつくってしまうのも人間です。

昭和２０年（１９４５年）８月６日　午前８時１５分。
原子爆弾の投下によって、街は焼け、たくさんの命が奪われました。
「助けて。」と、泣き叫びながら倒れている子ども。
「うちの息子はどこ。」と、捜し続けるお父さんやお母さん。
「骨をもいでください。」と頼む人は、皮膚が垂れ下がり、腕の肉が無い姿でした。広島は、赤と黒だけの世界になったのです。

７３年が経ち、私たちに残されたのは、
血がべっとりついた少女のワンピース、焼けた壁に記された伝言。
そして今もなお、遺骨の無いお墓の前で静かに手を合わせる人。
広島に残る遺品に思いを寄せ、今でも苦しみ続ける人々の話に耳を傾け、
今、私たちは、強く平和を願います。

平和とは、自然に笑顔になれること。
平和とは、人も自分も幸せであること。
平和とは、夢や希望をもてる未来があること。

苦しみや憎しみを乗り越え、平和な未来をつくろうと懸命に生きてきた広島の人々。
その平和への思いをつないでいく私たち。
平和をつくることは、難しいことではありません。
私たちは無力ではないのです。
平和への思いを折り鶴に込めて、世界の人々へ届けます。
７３年前の事実を、被爆者の思いを、
私たちが学んで心に感じたことを、伝える伝承者になります。

平成３０年（２０１８年）８月６日

こども代表　広島市立牛田小学校６年　　新開　美織
広島市立五日市東小学校６年　米廣　優陽

参加者・旅程・事前学習会・旅先での様子

参加者

〇髙山 智子さん　〇為房 久美さん　〇松永 清佳さん　〇山野 真理さん
〇髙山 篤志さん　〇為房　 壮さん　〇松永 瑞希さん　〇山野 颯志さん

計８人

旅　程

〇１日目　８月５日（日）

時　間	内　容
08：30	東京駅より新幹線で広島へ
12：26	広島駅到着
13：20	原爆ドーム、爆心地、原爆の子像、平和記念資料館見学
16：00	被爆体験者による講話

〇２日目　８月６日（月）

時　間	内　容
08：00	平和記念式典参列、献花
09：00	平和記念公園、本川小学校平和資料館見学
14：17	広島駅より新幹線で東京へ
18：13	東京駅到着　解散

事前学習会

７月 25 日の午前 10 時から、広島平和の旅がより意義深いものになるように、西東京市役所田無庁舎で事前学習会を行いました。

旅の主旨、行程、報告会等についての説明に加え、「非核・平和をすすめる西東京市民の会」会長の鈴木さん、藤川さんを講師にお招きし、詩の朗読や紙芝居を交えながら、広島と長崎に落とされた原爆について話していただきました。

旅先での様子

〇１日目

広島到着時の様子

８月５日の朝、東京駅に集合した後、参加者一同は新幹線で広島へ向かいました。今年は、全国的に猛暑が続きましたが、この日の広島も大変暑く、ハンカチで汗をぬぐいながら水分を補給している姿が至るところで見られました。

原爆ドーム等の見学

広島に到着後、滞在先のホテルに荷物を預け、原爆ドームや爆心地、原爆の子の像、平和記念資料館などの見学に向かいました。

実際に広島の地に訪れることで、その場の雰囲気を肌で感じることができ、本や資料では決して分からない多くのことを学ぶことができました。

その後は、広島平和記念資料館へ向かい、被爆した遺品や資料を見学しました。映像を用いて原爆投下時の様子が紹介されたため、当時の状況を追体験することができました。

被爆体験者による講話

広島平和記念資料館の見学後は、「原爆被害者団体協議会・被爆を語り継ぐ会」の平野貞男さんの被爆体験談をお伺いするため、原爆被害者福祉センターへ移動しました。講話会では、翌日の平和記念式典に参列する西東京市長も合流し、旅の参加者と共に、平野さんのお話をお伺いしました。

〇２日目

平和記念式典への参列

翌６日は、平和記念式典に参列しました。式典では、原爆死没者の名簿が奉納され、原爆が投下された午前８時 15 分には、平和への祈りと被爆者への慰霊の念を込めて、参列者一同が黙とうを捧げました。

式典後は、犠牲となった方々の冥福と平和への願いを込めて、参加者一同で慰霊碑に献花しました。

本川小学校平和資料館の見学

式典後は、爆心地に最も近い小学校として、被爆した状態のまま校舎の一部が保存されている本川小学校平和資料館を見学しました。今回は小学生の参加者も多く、本川小学校の資料には、共感する部分も多かったのではないかと思います。

〇終わりに

厳しい暑さの中で行われた広島平和の旅でしたが、参加された方々のご協力によって、無事に全行程を終えることができました。今回の旅が、平和な社会を築くための糧になることを祈りつつ、参加者一同が帰路につきました。

被爆体験者による講話

講師　平野　貞男さん
日時　平成 30 年８月５日（日）　午後４時～午後５時

動員学徒として「家屋疎開」に従事

講師の平野さんは、被爆した当時の年齢は 12 歳、県立広島商業学校の１年生でした。原爆が投下された時は、平野さんは学校の校庭にいたそうです。

本来は夏休みだった８月６日。しかし、当時は「月月火水木金金」と言われ、皆が休みなく働いていた状況でした。平野さんは、12 歳ながら戦闘帽を被り、ゲートルを巻き、兵隊と同じような格好で「家屋疎開」を行っていたそうです。「家屋疎開」とは、空襲により火災が発生した際に、重要施設への延焼を防ぐため、指定された地域にある建物を撤去することです。平野さんは、家屋の柱に巻きつけたロープを、みんなで引っ張って、倒壊した瓦や柱を分別する作業を行っていました。まだ親にも甘えたい年齢でしたが、多くの子どもたちが、動員学徒として何らかの形で戦争に従事していた時代でした。

「ピカ、ズシン」と感じた被爆時の状況

日本全国が甚大な空襲の被害に遭っていた頃、原爆投下前の広島では、B29 爆撃機が飛来するだけで、大きな被害はありませんでした。

８月６日の朝、この日も早朝にB29 が飛来しましたが、広島上空を横切るだけで、朝７時頃には空襲警報は解除されていました。「広島には爆弾は落ちないんだな」。平野さんは、いつものように「家屋疎開」へ行くために、他の生徒たちと一緒に校庭に集まっていました。職員室から先生が出て来たので、朝礼台に整列しようとしたそのとき、原爆が投下されました。

「口で言っても伝えられない」、「あの『きのこ雲』の真下にいた」。目の前がオレンジ色に光ったのが３～４秒間、原爆は「ピカドン」と表現されますが、平野さんの場合は「ピカ、ズシン」という衝撃を受けたとのことです。５～６秒か７～８秒後、今度は物凄い圧力の爆風が起こりました。それから少し経過して、上空の雲からやっと太陽の薄日が差したころ、周りの人たちが「まともではない」、「むごい姿」になっていることに気が付きました。

希望を持って生きてほしい

「体験した人でないと分からない」という爆心地付近での凄惨な状況。平野

さんは、自身で描かれた絵や当時の写真などを用いて、皆に話してくれました。

体中に火傷を負ったため、発汗作用が働かず、直射日光にさらされると、肌が鉄板を貼り付けたような熱さにもなり、今も辛い思いをしています。そのような体験をされているからこそ、これからの時代を生きる人たちには決して戦争を経験してほしくない、戦争は他人事だと思っているかもしれないけれど、わが身にも起こり得ることだ、と平野さんは言いました。

戦争や被爆体験の話をしながらも、その悲惨さを訴え続けることで、これからの平和な世界を築くことの大切さを説く平野さん。「希望を持って生きてほしい」と、語る平野さんの話を、参加者は真剣に聞き入っていました。

主な見学先ガイド

●平和記念公園

戦後、世界の恒久平和の願いを込めて、この記念公園が建設されました。公園内には、平和記念資料館、国立広島原爆死没者追悼平和祈念館などの施設や、原爆死没者慰霊碑をはじめとするモニュメントがあります。

●広島平和記念資料館

戦後、世界の恒久平和の願いを込めて、この記念公園が建設されました。公園内には、平和記念資料館、国立広島原爆死没者追悼平和祈念館などの施設や、原爆死没者慰霊碑をはじめとするモニュメントがあります。

●原爆ドーム

チェコの建設家ヤン・レツルの設計により、大正４年（1915 年）に開館したこの建物は、被爆前は「広島県産業奨励館」でした。原爆は、ここから南東 160 mの上空約 580mで炸裂し、建物は廃墟の残骸となりました。平成 8 年（1996 年）、ユネスコの世界遺産に登録されました。

●原爆死没者慰霊碑（公式名：広島平和都市記念碑）

平和記念公園のほぼ中央にあるこの慰霊碑は、原爆犠牲者の霊を雨露から守る願いを込めて、家型ハニワに設計されました。石室には、原爆死没者名簿が納められています。

●原爆の子の像

この像は、原爆性白血病により 12 歳で亡くなった佐々木禎子さんの霊を慰め、世界平和をよびかけるため、昭和 33 年（1958 年）に建設されました。たくさんの千羽鶴が捧げられています。

●本川小学校平和資料館

爆心地にもっとも近い学校として、原爆の被害を受けた状態をそのまま残し、被爆の「証」として保存されています。「展示室」には、被害の様子が載った写真や、被爆した遺物があります。

広島平和記念公園　周辺ガイドＭＡＰ